

第3回 田沢湖地域審議会会議録

【とき】平成18年 7月 31日（月）
午前10時00分～

【ところ】田沢湖庁舎第1会議室

【出席委員】 伊藤和彦・山手祐子・八柏龍也・千葉正登・高橋正治
羽川芙紗子・細川雪子・羽根川覚・小松直・高藤孝子
草薙俊一 （11人）

【欠席委員】 藤村正喜・羽根川朋幸・門脇隆広・高橋 達 （4人）

【出席職員】 助役、高田田沢湖地域センター長、田口総務部次長、
倉橋企画政策課長、田口総合窓口課長、藤原地域振興課長、
柴田田沢出張所長、三浦神代出張所長、藤村企画政策課参事、
戸沢政策課長補佐、戸村総合窓口課主査 （11人）

【議 事】

（1）仙北市総合計画（素案）について

（2）その他

《田口総合窓口課長》

ただいまから第3回田沢湖地域審議会を開会いたします。最初に会長あいさつ。伊藤会長さんの方からよろしくお願いします。

《伊藤和彦会長》

伊藤です。今回もよろしくお願いします。通知によりますと、審議会の意見をという形でできております。資料としては、仙北市の総合計画の素案がございます。今日はそれを説明していただいて、意見としてまとめて提案するわけですが、聞くところによるとひじょうに提案が少ないということですので、今日は、具体的に素案にたいしてご意見をいただいて、それが意見として出ていくような形を取りたいと思いますので、皆さんの活発なる意見をお願いします。

《田口総合窓口課長》

次に助役のあいさつ

《助 役》

皆さんこんにちは。東海林と申します。初めての方、お目にかかった方もいらっしゃると思いますが、これからもいろいろとお世話になると思いますのでよろしくお願いいたします。今日は、第3回地域審議会ということで会長さんはじめ、たいへんお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。また、仙北市の行政運営につきましては、日頃からご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。今日は、仙北市の総合計画の素案について、いろいろと提案をいただくようお願いしたわけですが、これからの仙北市の将来像を明らかにしていく基本計画ですので、明るい仙北市の将来を描けるように忌憚のないご提案をいただければありがたいと思います。昨年の9月20日合併して10ヶ月経過しました。その間合併する前に想像出来なかったいろいろな問題、課題も出てきていると思います。そんなことも踏まえて、今これからの仙北市をどうやって作っていくか、大変重要な時期にさしかかって来ています。これまで1回目、2回目の審議会を含めて、アンケートなどいただいているが、今日はそれを踏まえた、基本構想を中心にした素案をお手元にお示ししておりますので、9月まで期間が少ない中で、皆様方のご提案をどのように反映するか、私共も一生懸命考えて参りたいと思いますので、今日は皆さんが考えていること、素案についてのご意見、特に素案の中で地域づくりの根本ということで、三つの地域についての今後の方向性の部分であります。合併したということで、それぞれの地域の特徴を活かしてそれをうまく繋ぎあわせながらいくことが重要なことで、仙北市全体として新しいまちづくりをしていくことが大切だと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

《伊藤和彦会長》

議事に入らせていただきます。最初に仙北市総合計画（素案）について担当者にご説明していただきます。

《倉橋企画政策課長》

仙北市総合計画の概要を資料にもとずいて説明ありました。

《伊藤和彦会長》

資料が事前に配布されてありましたので、皆さん読み込みしていますのでアンダーラインが付いていることと思います。進め方ですが、序論、基本構想とあるわけですが、この組み立て等に特に問題がなければ、第5章の地域を活かす構想ということで、ご意見を諮りたいと思いますが。1章1章確認して行った方がいいのか、進め方をどうしたらいいか。

《小松 直委員》

前者でいいです。

表題はめざしてとかなですが文章の中では目指すと漢字になっているが統一したほうがよいのではないか。

《倉橋企画政策課長》

めざすのかなに統一する。

《高橋正治委員》

第4章の土地利用で転用の表現を維持して行くと表現したほうがいい。観光産業をめざすとするならば、国有林野が7～8割占めるので利活用する方向でいったらよいのではないか。

《羽根川 覚委員》

第3章の将来人口のところで、人口減少に歯止めをかけるために、子育て支援をはじめとする少子化対策や雇用環境の改善等とあるが、今朝の新聞で団塊の世代が退職するが自治体の活性化のため東北の他県で、全国の団塊の退職者を我町にとりましたが、同じような計画はあるか。

《伊藤和彦会長》

観光としてではなく定住という形での取り組みが少ないのではないかと思うが、その点の配慮をお願いします。

《細川雪子委員》

8ページ人口減少に歯止めをかけ……とありますが子育て支援をはじめとする少子化対策のところに一つ話したいと思ってきた。ここのところの記述も子育て支援をはじめとすれば、どういう点におい

て若い人たちの子育てを支援していくか、たとえば学童保育とか、または若い親たちが子どもを育てる場合に、どういう点において難儀しており、どういう支援が望まれているか、本市の場合そういうところの記述があれば、少子化対策を具体的に示すことができるのではないか。2, 3行では解りずらいのではないか。

《倉橋企画政策課長》

高橋委員からもご指摘ありました将来人口で角館地域審議会で、2050年に12,000人と簡単に記述してよいかのとお叱りを受けたが、具体的な施策が見えてこないといわれた。会長さんが言われたとおり具体的な施策まではいたらなかった。団塊世代の件については、角館でも提言がありました。定住対策に取り組まなければならないのではないかと。子育て支援については、他の項目もそうですが基本計画のそれぞれの項目の中で、具体的な施策を提案したいと考えている。目次を見ていただくと3編の基本計画がそれぞれ載っています。第2章の4番目に子育て支援が載っているのでそうした中で考えていただきたい。実際仙北市の若い人たちが具体的にどういう支援を望んでいるか、本課と話し合わなければならない。具体的な提案がありましたらお願いしたい。

《伊藤和彦会長》

その他に4章5章の間で質問ありませんか。

《草薙俊一委員》

農業関係問題についてであるが、仙北市全体の農業の後継者問題、どうやって集落に活力をつけるか、子育てにも関係することであるが。仙北市独自の施策が必要だ。

《伊藤和彦会長》

基本理念の観光産業を活かしたまちづくりの中にはいるか。具体的にトータル的なことを盛るのでないので、それぞれの具体的な施策の面で取り上げてもらいたい。

《羽根川 覚委員》

基本構想第7章に計画達成のために小さい項目がないが。具体的な項目を載せなくてもいいのか。たとえば、財源確保とか。

《倉橋企画政策課長》

行革大綱に基づいて、さらっと書いているがもっと突っ込んだ文章にすべきだったか。

《羽根川 覚委員》

計画を掲げ、それはこういう形で達成していくという具体的に記述したほうがいい。

《高橋正治委員》

人件費を削減して市の財政運営をして、計画達成して行くと捉えている。

《倉橋企画政策課長》

現状は厳しい。やっていく中でいろんな振興を図って行こうと思っている。

《細川雪子委員》

7章をいくつかのセクションに分けて、的を絞って示してもらおうと解りやすいのではないか。

《伊藤和彦会長》

実施計画の中で述べているので、計画の段階でそこまで必要か。そうなるとこのスタイルを大きく変えることになるので、厳しいのではないか。

《助 役》

計画達成のため財源の確保も含め、情報公開も含めて、聞きながらやっていく施政を表している。文章としてさらっと書きすぎている感じはいがめない。変えるとすると行政改革大綱の作成に向けて検討する。9月を目指しているが、具体的な市としての施政の取り組みの詳細についてはそちらにあるので、ここにはこういう感じにしたということもある。政策施策の部分なのでこうした。職員の削減とか言葉としては載っているが、具体性をもった形で行政改革はどのような形でやるか、税務の組織体制をこういう形にするとか 具体的に書くのは可能だと思うので、若干変えて行きたいと思う。

《草薙俊一委員》

田沢湖地区については、いつもこのような文章が出てくる。自分たちが田沢湖地区の施設、地域について説明できるシステムをつくらなければならない。市民に小さい部分まで情報提供する必要がある。

《伊藤和彦会長》

第5章地区のめざすべき方向について書いている分けですので、できれば全般的な意見も結構ですがこの方向が欠けていると思われることを具体的におねがいます。医療の確保がなければ発展がないので、その方向は位置づけしておかなければならないとか、地域としてものすごい影響がある方向性をここで示しておかないと、他地域との摺り合わせの中で取り上げてもらえないと思う。その地区の保護方向をしっかりとさせておかないというものがあれば、表現の中に盛り込んでおくと他の地域との会合でいいと思う。

《高藤孝子委員》

田沢湖地区のことですが一番最初にめざす方向が観光産業を活かしたという大目標になっていますから、それに基づいて作られていると思うが、実際田沢湖も観光地で体験学習などに来ているが、ここに集めた時に医療体制がしっかりしていないと、子供たちを呼ぶことができない。そのためにも【医療体制の充実】と田沢湖地区に入れて欲しい。

《草薙俊一委員》

スキー場で怪我人でもたらい回しなので、医療の充実をしなければならない。

《高藤孝子委員》

駅から観光地までのアクセスが悪いので、自然環境の良さをアピールし3地区の連携を取って改善して欲しい。

《羽根川 覚委員》

7月からインターネットが出来るようになったが、携帯電話は今のところ通じないない現状である。こういった地域差をなくして欲しい。

《高橋正治委員》

アンケートの調査によると旧田沢湖町に望む上位は道路、上下水道、医

療、自然を大切にとあったが、これも生保内、神代、田沢と地区別に課題が違うのではないか。アンケート調査結果を重視したほうがいい。

《高藤孝子委員》

他地区と比較したときに、文章表現に弱さを感じるので強い表現にした方がいい。

《千葉正登委員》

生保内商店街が寂れていくので、現在駅前開発されている時期に商店街の活性化を図る具体的対策が欲しい。

《八柏龍也委員》

田沢湖地区は観光だけに目がいつているような気がするので、神代地区の農業についても載せてもらいたい。

《細川雪子委員》

農業は観光との結びつきだけではなく、農業を担っていくものを育成する方向を打ち出して欲しい。また、農地をどうやって維持していくか考えて欲しい。

《高藤孝子委員》

都会に勉強に出ていった子どもたちが戻ってくる、戻って来たいと思う、雇用問題も含めたまちづくりを望む。

《山手祐子委員》

農林業、商工業、観光の結びつきの強化を図り、それぞれの生産性に結びつけ活性化に向ける。

《羽川芙美子委員》

林業、農業の担い手の育成が必要である。高齢者の健康寿命を延ばす方向で進める。

《小松 直委員》

観光行政は1市町村でやるのは限界があるが、道路整備をして観光の活性化に繋げて欲しい。

《伊藤和彦会長》

だいたい出尽くしたようですので終わります。